

2011年
7月15日発行
第57号

北九州地区労連

発行：北九州地区労働組合総連合（〒802-0071 北九州市小倉北区黄金町1-4-9 山本ビル207号 TEL 921-0747 FAX 921-0284
ホームページアドレス http://www.geocities.jp/k_roren/ Eメールアドレス k_roren@ybb.ne.jp

梅雨空を抑えて、本日晴天なり 大正ロマンの町 門司港レトロに集う570名

第48回北九州母親大会は歌声協
議会のオープニングで始まりまし
た。
今日は元気の出る斉太郎節・町・
その手の中に・・・美しいハーモニ
ーにしばし癒され♪♪、早速始めの
挨拶から始まります。その後、3・
11大震災で亡くなられた方々への
哀悼の意で黙祷・・・
来賓のご挨拶は、福岡県母親大会
実行委員会の葦沢久美子実行委員長
と北九州市民の会の三輪俊和事務局
長お二人です。ご挨拶は大震災と原
発の事から始まります。今年の大会
は、この厳しく悲しく不安なこの日
「3・11を起点に、日本を転換さ
せるため大いに学び、運動し輪を広



7月17日「2011原水爆禁止国民平和 大行進」九州入りしました。今年は広島から長崎までのコースです。

門司港鎮西橋公園で出発集会を行いました。

波田実行委員長の挨拶、被爆者団体代表挨拶、広島からの通し行進者挨拶の後地区労連ののぼりをはじめ、それぞれ団体の、のぼりを引き継ぎ、門司地区コースが出発しました。

門司区長挨拶は日曜日の為メッセージが読み上げられました。途中片上で釣具店の駐車場を借りて新婦人門司支部からの冷たいお茶の接待を受けました。門司駅前集会では「おおかわ歌声合唱団」の歓迎合唱、社民党の市議・福島原水禁代表からの連帯挨拶を受けました。

原発なくせの声も大きく 原水爆禁止国民平和 大行進九州入り



写真上は門司地区出発集会後門司生涯学習センター前を行く行進団。下は広島からの通し行進者の挨拶を受けるところ。右端は雪竹副議長。



げよう」がキーワード・・・
と言えるでしょう。

4歳と6歳のお子さんと
同伴の平田仁子さんの記念
講演は「安全で安心な地域環
境を未来に残す為に「地球
温暖化とエネルギーを考え
る」。

子を思う母の思いのこも
った演題で、だからこそ沢山
の不安があるけれど4つの
事を提起されたのです。1他
人事から自分ごとへ 2省
エネ方法 3 根源を変える
4 応援する・・・これには同感
者がいっぱい！
(実行委員会ニュースより)

雨あがり

5月の連休に高知で大学時代の同窓会が開かれるということで、妻と一緒に出かけたい。連休ということ、観光地はどこも多くの人で賑わっていることだろうと思いつながらの旅の始まりだった。案の定、滅多に渋滞することのない四国的高速道路も、この連休中は例外だった。

観光が目的ではないのと、休養を兼ねた旅ということもあり、温泉のある高知の山里、柚子で有名な馬路村まで足を延ばし、そのオートキャンプ場で一泊することにした。この馬路村、大正から昭和にかけて、梁瀬杉(やなせすぎ)の伐採で多くの人が働く活気のある村だったそうだが、今は林業も寂れ、過疎の村である。しかし、緑に囲まれ空気は澄みわたり、心身ともにリフレッシュすることができた。

2日目は、同窓会に参加するため高知市へ。今回の同窓会、この一年の間に二人の同級生が他界し、亡き仲間たちの供養のために集まった。30年ぶりに顔を合わせる同窓に、学生時代の話や仕事の話、そして孫や持病の話などで大いに盛り上がった。それにしても、年を重ね、それなりの容姿、風体ではあったが、中身は昔のままの愉快で、心優しい仲間たちの姿をみて、学生時代の思い出が蘇り、楽しい時間を過ごすことができた。次回、「皆が元気なうちにまた会おう」と約束して別れた。

2泊3日ではあったが、自然や仲間との心温まるふれ合いを通して、日頃の忙しさを忘れ、ゆつたりした時間を過ごすことができた思い出多き旅だった。

北九州地区労連(裏面)

あの〜くみあいから 18

自交総連北九タク労新和支部

副支部長 西岡 進一

私の勤めている会社は従業員で運営している自主経営のタクシー会社です。

最近では組合員の数が減りバイトの方が増え、新人の面接申し込みもなく来るのは、バイトの面接ばかり年金がすくないとか、自分の趣味の為とか、孫にいいじいちゃんとか、このままでは新和は、ジリ貧の運命にあります。なんとかして組合員をふやし、従業員の生活を確保する事が先決です。最近では不景気の為、仕事が激減していますが、従業員は家族を養うためにがんばっています。

自主経営を始めて34年、地域密着、安心と感動をモットーにしている会社です。車のご用命あれば、新和をぜひご指名下さい。従業員一同おもてなしの心でお待ちしています。

第59回評議員会が開かれました

6月10日第59回評議員会が開催されました。「第58回評議員会以後の活動報告」「第3四半期決算報告」「夏季闘争など当面の取り組みについて(案)」「2010年度決算見込み及び2011年度暫定予算(案)」など、幹事会が提案した議案について討議しました。

議案に対する質疑討論では、財政議案について医労連の評議員から質問、自由が丘教職組合から闘争支援の訴え、福建労から住宅リフォーム助成制度実現を目指すたたかいについて補強発言があり、全ての議案が満場一致で採択・承認されました。同時に役員検討委員会、選挙管理委員会も確認され23回定期大会に向けて準備を進めます。

評議員会で、東日本大震災支援被災地・被災者支援の取り組みについて、「北九州地区労連は、全労連の大震災労働者対策本部の提起にもとづき、職場でのカンパ、救済物資などに取り組んできました。またメーデー、デーセントワークデーなどでの救済募金などにも取り組みました。各加盟組合でも、支援カンパや、現地への医療支援、業務支援、ボランティア派遣などが取り組まれています。これまで、地区労連に寄せられた義援金は、106,252円となりました。」と報告されました。

競馬場組合	3,000円
新潮印刷労組	31,626円
福祉保育労あゆみ分会	10,000円
福法労	26,800円
北九州地域ユニオン	18,000円
事務所カンパ箱	5,326円
学嘱労	11,500円
合計	106,252円

北九州市でも実現させよう！ 住宅リフォーム助成制度を

安心・安全な住宅、 地元業者の仕事おこし、 地域経済の活性化



住宅リフォーム助成制度は、住宅の改修のため、地元・市内業者に工事を頼めば自治体の助成金が出る制度です。この事業は経済波及効果が15倍~20倍と地域経済活性化にバツグンの威力を発揮しています。全国では40都道府県330市町村で実施(今年4月)しており、福岡県内では、筑後市、筑紫野市、荏田町など7自治体が行っています。実施している自治体では、リフォームによる快適な居住の改善、地元業者の仕事確保、経済波及効果による地域の活性化と1石3鳥の効果を生み出しています。安心・安全な住まいを応援し、市内業者の仕事おこしと地元経済の活性化につながる住宅リフォーム助成制度が全国の自治体で広がっています。

北九州市でも暮らしを応援して市内経済の活性化につながる住宅リフォーム助成制度の実現に向けて6月27日に「住宅リフォーム助成制度実現をめざす会」が発足し会長に中山議長が選任されました。また、6月28日の北九州市会議員最終日に日本共産党提出の「住宅リフォーム助成制度の創設を求める決議」が賛成多数で可決しました。北九州地区労連は団体署名の目標50団体、個人署名の目標は組合員数です。署名運動に全力をあげて取り組んでいます。



カットは全建総連ホームページより

事例検討会のご案内

毎月 第3木曜日開催
北九州地区労連事務所

弁護士と労働法について
話し合いませんか？



第7回目の事例検討会を、6月16日地区労連事務所で北九州第一法律事務所の天久弁護士を迎えて行いました。

内容は「資格取得経費の返還を求められたらどうすればよいか?」「退職届は撤回できるか?」を事例として挙げ、さまざまな角度から検討しました。大変勉強になります。

次回は7月21日後藤弁護士です。

地区労連役員だけでなく、加盟組合の組合員や労働相談者も、法律相談で参加できますので多数ご参加ください。